

後期シチェ派の教誡に関する一考察 ——医療文献『教誡・蓮華の鬘』について——

西 岡 祖 秀

1. 序

後期シチェ派とは、開祖のタムパ・サンゲ Dam pa Sangs rgyas (?-1117) が 12 年間の中国滞在のあと 1097 年に最後の布教地であるティンリに巡錫して以降の伝統をいう¹⁾。タムパ・サンゲより直接に教誡を伝授された直弟子のチャンチュップセムパー・クンガー Byang chub sems dpa' Kun dga' (1062-1124) が四大弟子のパツァップ・ゴムパ Pa tshab sgom pa (1077-1158)、ギェルワ・テネー rGyal ba Te ne (1127-1217)、ログ・シェラップセンゲ Rog Shes rab seng ge, シグポ・ニマセンゲ Shig po Nyi ma seng ge (1171-1245) に伝法してシチェ派が隆盛した²⁾。特にクンガーとの問答をパツァップがまとめた『タテイク』(Phra tig)³⁾と、パツァップの説法をテネーが筆記した『タルツァッグ』(Dar tshags)⁴⁾が有名である。

ところで、宗派名の「シチェ」(zhi byed) は詳しくは「ドウッゲル・シチェ」(sdug bsngal zhi byed) といい、「苦を鎮める」の意味である。ティンリ時代のタムパがミラレーパに与えた『金剛歌』の第 9 偈には「病や痛みが生じた時は、それを賜物とする。出来事がどのようなであれ大いに喜びなさい。」とあり⁵⁾、病の克服を契機として、それを宗教的価値へと転換することの必要性を説いている。またペーマ・カルポ Padma dkar po (1527-1592) 著『獅子の遊戯』の「疾病を断つこと」の項には「第一の疾病を断つこととは、伝染病の〔流行している〕土地に行き、パツという〔呪句を唱える〕ことにより身と心を二つに分け、病の前へしり込みせずに進み出る。そして対面の病を自分の鼻孔から体内に吸い込む。そしてその病を自分の中央動脈の中に入れたことにより、病を空寂のうちに昇華してしまったと思念し、病に対する逃避も恐怖もなくなるのである。」と説かれ⁶⁾、シチェ派の実践の中核をなす身心分離の修法が病の除去・治療と不可分の関係にあることを示している。本稿では、そのより詳細な事例を提示する資料として、後期シチェ派の医療文献である『教誡・蓮華の鬘』を取り上げ、その内容を検討する。

2. 『教誡・蓮華の鬘』

本書には写本と活字本の2種のテキストが存在する。

(A) 写本は『シチェ派の初中後三期の法類』に単行本として収められているが⁷⁾、その首部と末部の欄外には、それぞれ細字で“*Zhal gdams pad mo'i phreng ba bzhugso//*”（『教誡・蓮華の鬘』である）と“*Dar tshags kha 'thor Zhal gdams pad mo'i 'phreng ba//*”（『タルツァッグ』の散逸文献である『教誡・蓮華の鬘』）との書き込みがある。ここに「『タルツァッグ』の散逸文献である」とされる事情については、本書の直前に収められている『神変の宝の鍵』⁸⁾という文献を調べたところ以下の点が明らかとなった。本書は首部の欄外に“*zhal gdams thu ru'i skor bzhugs so//*”（秘密の教誡の類である）という細字による書き込みがあり、末部の本文中に“*Rin chen 'phrul gyi lde dmig*”（『神変の宝の鍵』）という書名が記された全12章から成る文献である。その章名は本書の冒頭に、①密乗ラマの伝承に関する解説、②了解すべき見解に関する解説、③真性を考察するための修行、④実践すべき行の説示、⑤修練より生じる喜悦に関する解説、⑥証悟の境地の得不得に関する解説、⑦内外秘密三種の兆候に関する解説、⑧神通に通達する能力を起こさせる加持に関する解説、⑨ヨーガ行者の実践において障碍となる魔の解説、⑩障碍を退ける禁戒の解説、⑪発症する病の除去に関する解説、⑫究極の成果に関する解説と列記されているが、本文を調べた結果、⑪の「発症する病の除去に関する概説」の部分が欠落していることが判明した。そして更に、前述の『教誡・蓮華の鬘』の冒頭に「靈薬の文献により、発症する病の除去に関する教誡を解説すれば5節である…」の記述があることから、本書が『神変の宝の鍵』の第11章に相当することが確認された。したがって、散逸文献とは、本書が『神変の宝の鍵』の第11章であることを意味し、しかも『神変の宝の鍵』そのものが『タルツァッグ』に関する秘密の教誡であると考えられるのである。

(B) 活字本は『シチェ派とその支派チュー派の経巻集』に収められている。ただここでは、単行本としてではなく『教誡・神変の宝の鍵』⁹⁾の第11章として掲載されており¹⁰⁾、したがって『教誡・蓮華の鬘』という書名も付与されていない。本著作集の編集者が、『シチェ派の初中後三期の法類』を参照し、上述したような経緯を確認したうえで編集したものと思われる。なお、『教誡・神変の宝の鍵』の冒頭（p. 616 = fol. 1b）の欄外には“*Ten ne*¹¹⁾ *Zhig po bshad pa'i bka' sgras bgro//*”（テンネーとシグポの御討議によるもの）との書き込みがあり、本書が四大弟子

(60) 後期シチェ派の教誡に関する一考察 (西岡)

中のギェルワ・テネーとシグポ・ニマセンゲの共著であるとされていることが注目される。

3. 『教誡・蓮華の鬘』の概容

本書は (1) 病の認識, (2) 病〔の気〕の収集, (3) 病の考察, (4) 病の除去, (5) 病の治療の 5 節から成る。第 1 節から第 4 節までは序文のごとき体裁をとり、記述の大半は第 5 節の「病の治療」に費やされている。したがって、本書の概容を知るために第 4 節までの訳を掲げ、それに対する解説を述べることにする。なお訳中の節を表す数字は、筆者が便宜上施したものでありテキストには存在していない。

〔訳〕 靈薬の文献により、発症する病の除去に関する教誡を解説すれば 5 節である。〔すなわち〕 病の認識と〔病の気の〕 収集と〔病の〕 考察と〔病の〕 除去と〔病の〕 治療である。(1) 病の認識には 3 種がある。〔すなわち〕 間接的内的原因と直接的内的原因と外的原因である。間接的内的原因とは五毒と三毒である。直接的内的原因とはルン (風素) とティーパ (胆汁素) とペーケン (粘液素), それに血と膿の混合したものである。外的原因とは伝染病の〔流行している〕 土地に行くこと, 石の霊を転がすこと, 木の霊を切ること, 水の霊を濁すこと, 嗚呼それ, 〔その〕 粗暴な行いから起こるのである。〔また〕 男女の夜叉〔によるの〕 である。(2) 病〔の気〕の収集〔についていえば〕, 結跏趺坐し, 「息」を三度強く凝らし, 印を結び, なんであれその対象に対して身体の乱れを鎮めるのである。(3) 病の考察¹²⁾〔についていえば〕, 病の痛みがいかにも大きくとも患部に集めるのである。(4) 病の除去〔についていえば〕, 「知」に託す方法と「息」を制御する方法¹³⁾と「身」を整える方法の 3 種を駆使するのである。

〔解説〕 第 1 節の「病の認識」で述べられるのは疾病の原因であるが, それらは後期シチェ派と同時代のユトク・ユンテン・グンポ g-Yu thog Yon tan mgon po (1126-1201) によって編纂されたと考えられる『四部医典』¹⁴⁾との関連が窺える。すなわち, 間接的内的原因の一つとされる三毒は同書の第 1 根本篇の第 3 節「疾病の原因」に言及があり¹⁵⁾, また直接的内的原因として挙げられるルンとティーパとペーケンは三大生命維持要素として, 同書の第 3 秘訣篇の第 1 章「病因となる三要素を治療する方法」(1-5 節) に詳細な記述がなされている¹⁶⁾。さらに外的原因とされる悪霊についても, 同書の第 3 秘訣篇の第 11 章「悪霊による病気を治療する方法」(77-81 節) に解説がなされている¹⁷⁾。

第 2 節から第 4 節は, 身心分離の修法を疾病の除去・治療に応用する原理を述べたものであるといえる。身心分離の修法はタムパ・サンゲに始まりマチク・ラプキドゥンマ Ma gcig Lab kyi sgron ma (1055-1143, 生没年に諸説あり) によって大

成されたものであるが、その要旨は次の通りである¹⁸⁾。修行者は瞑想において尊師への祈禱を行った後、「心」(sems)の象徴としての「知」(rig pa)が両足の底に生じたと思念するが、これは一種の精神生理学的原理であり「滴」(thig le)とも表現される。そして下腹部・腹部・胸部・喉部・頭部のチャクラの位置にある「息」(rlung)を自在に制御することにより、「知」を下腹部で合体させ、更に中央動脈(生命脈管)を通じて上昇させて頭頂のブラフマ孔から一気に虚空へと送り出すのである。

この身心分離の修法を基本として疾病の除去を説くのが、本書の特徴である。すなわち、疾病を除去するための第一段階は、疾病の元であるとされる「気」(rlangs pa)を集めることであり、それは結跏趺坐による瞑想を通してなされるとされる。そして第二段階として集めた「病の気」を「知」に託し、更に第三段階として「息」を制御することにより生命脈管中を下方から上方へと移動させブラフマ孔から外部に放出するのである。以上を基本パターンとするが、個々の疾病により当然のことながら細部にわたる治療法には相違が見られる。

4. 病の治療の実例

第5節の「病の治療」では、重複はあるものの以下の21の病に関する治療法が述べられている。すなわち、①頭部の病、②眼病、③肺病、④ルン病、⑤腎臓病、⑥ペーケン病、⑦熱病、⑧黄水病、⑨上半身痛(ティーパ病)、⑩癌、⑪寒病、⑫喉の病、⑬歯の病、⑭尿閉の病、⑮心臓と肝臓の病、⑯ma zhar?病、⑰上半身の病、⑱内科の病、⑲手の病、⑳血液の病、㉑ルン病である。ただ本書は全体で2葉余りの小篇であるため、個々の記述は極めて簡略であり、場合によっては数語のみのものも見られる。記述様式はおおよそ三種に分類されると考えられ、以下にはそれぞれの代表例を取り上げて、その訳と解説を示す。

[訳] [④ルン病の場合] ルン病¹⁹⁾を除去することに[関していえば次のとおりである]。三角形の心臓²⁰⁾の[それぞれ]三つの角に三本の脈管²¹⁾が通っていることから、脊椎わきの生命脈管に疼痛がある[場合には]、[その疼痛の気が]頭部の生命脈管の中を上方にのぼり、[さらに]ブラフマ孔の中から上方に多くの蒸気が充ち満ちるように出てしまったと思念するのである。あるいは、上の「息」を押し下げるように瞑想して、「知」を清浄ならしめるのである。

[⑨上半身痛(ティーパ病)の場合] 上半身の疼痛²²⁾の場合なら、二度「息」を強く凝らし、胸元で印を結び、身体を整え、[身体の]乱れを鎮める。[そして]病[の気]を集めて上方に現れるようにさせるのである。あるいは、患部に孔をあけて外に排除する

(62) 後期シチェ派の教誡に関する一考察 (西 岡)

のである。あるいは、「ウウッ」と言って鏡に呼気が付くように病を集めて、「ヒヒッハハッ」の声によって茜草²³⁾の汁液を口から胃に送るのである。

〔⑩癌の場合〕胃もしくは肝臓に癌のようなものができた場合には、「知」を四輻からなる鉄輪となし、その輪を転じて、チャクラの尖端ですべての病を粉々にしてしまったと思念して、膿状の〔薬〕物を口から胃に送るのである。

〔解説〕第5節の治療法の説明においては、第2節で述べられた結跏趺坐による瞑想を通して「病の気」を集めるという第一段階の修法がすべての前提になっており、特段の場合を除いてこれに関する記述はなされていない。この点に留意して、上に挙げた3例についてコメントしたい。

④のルン病の例は、「疼痛の気」が生命脈管を通じ、頭頂のブラフマ孔から放出されるという第三段階の経緯がはっきりと述べられている典型例である。⑨のティーパ病の例は、結跏趺坐による瞑想を通じて「疼痛の気」を集めるという第一段階の修法が具体的に述べられており、また精神的治療のほかに、患部に孔をあけるといふ外科的治療と投薬による治療とが併用されている点が注目される。なお、投薬治療は②の眼病の治療法²⁴⁾にも用いられている。⑩の癌の例は、第二段階の自己の心を象徴する「知」によって鉄輪を作り出し、それによって癌の病巣を破壊するというものであるが、同様の修法が②⑪⑭の治療法²⁵⁾でも用いられているために例示した。なお、ここで投薬治療に用いられる茜草と氷片は、注にも記したように『四部医典』に薬剤として挙げられており、前述の疾病の原因と考え合わせると、本書の成立に『四部医典』が及ぼした影響を指摘することが出来よう。

5. 『教誡・蓮華の鬘』の全文テキスト

底本として『シチェ派の初中後三期の法類』所収の写本を、異本として『シチェ派とその支派チュー派の経巻集』所収の活字本を使用した。なお両本はそれぞれティンリのロンプ (Rong-phu) 寺とランコル (gLang-skor) 寺の所蔵本であるため、R, L の略号によりその異同を括弧内に示した。また第5節に挙げられている病名に便宜上番号を付したが、テキストには存在していない。

Zhal gdams pad mo'i phreng ba bzhugsol (L: 欠)

sman ra sa ya na'i dpe la brten nas/ 'byung ba nad 'don gyi gdam (L: gdams) ngag la ngo sprad (L: sprod) pa ni lnga ste/ nad ngos bzung ba dang/ bsdu ba dang/ brtag pa dang/ gnod pa dang phyi rjes gcad pa'o// nad ngos bzung ba la gsum ste/ nad ring ba'i rgyu dang/ nye ba'i rgyu dang/

rkyen gyi rgyu'o// ring ba'i rgyu ni dug lnga dug gsum mo// nye ba'i rgyu ni rlung khris bad kan/ khrag chu ser lus (L: 'dus) pa'o// rkyen gyi rgyu ni/ mnyan sar 'phrus pa dang/ rdo mnyan (L: gnyan) bzlog (L: bslogs)/ shing mnyan (L: gnayn) cad (L: gcad/) chu mnyan (L: gnyan) rngogs (L: brnyogs) pa e de/ spyod pa rtsings pa las byung ba yin no// (L: gnod pa ni/ gdon, R: 欠) gnod sbyin pho mo'o// nad bsdu ba ni/ dkyil (L: skyil) mo krung bcas la/ rlung gsum drag tu bzung/ phyag rgya bcas la/ gang na sar dmyigs (L: dmigs) pa gtad la lus 'khrul shigs (L: shig) shigs (L: shig) bya'o// nad bsdu ba ni zug gzer gang che sar (L: sa) ru bsdu'o// nad gdon (L: 'don) pa ni/ rig pa'i gtad thabs/ rlung gi brda' (L: brda) thabs/ lus kyi bca' thabs gsum sprugs pa bya'o// nad kyi phyi rjes gcad pa ni/ nad bton pa'i rjes la/ spyi bo dang rkang mthil du sku mnyed (L: mnye) bya'o// de gdam (L: gdams) ngag tu bya na/ ①'go (L: mgo) bo na na thod pa slog la/ nad kyi blangs (L: rlangs) pa thams cad gyen du phyu (L: phyur) ru ru song bar bsam mo// ②dmig (L: mig) na na/ dmig (L: mig) thod pa'i phyi nang gnyis na yar song nas/ tshangs pa'i bu ga gnyis su 【143b】'dus yod pas/ rtsa'i nang na yar la/ dmig (L: mig) nad kyi blangs (L: rlangs) pa ser po phyu (L: phyur) ru ru thon nas song bar sgom mo// rtsa rbug (L: sbug) stong pa de/ ga bur gyi chu dkar pos gang nas drang (L: grang) si (L: sil) li li khyag pa bsrn (L: brlan) zer ba bzhing du bsam mo// yang na dmig (L: mig) dang kha ru bug pa sengs kyis btod la/ rang gi rig pa rlung sngo la 'phur ba cig (L: zhig) byas nas/ dmig (L: mig) nas ton (L: bton) nas/ kha kha (L: 欠) nas pho la gtang ngo// ③glo ba'i nad gdon ba ni/ rlung en cig nang du 'then la/ blo (L: glo) ba'i nang khrag dang rnag dang/ chu ser gyis gang bar bsams la/ sna bug gi nang na phar bus pas/ khrag dang/ rnag dang/chu ser rgyangs rgyangs song bar bsam mo// ④snying rlung gdon ba (L: pa) ni/ snying zur gsum yod pa'i/ zur gsum la rtsa gsum yod pas/ rgal (L: sgal) mchan gyi srog pa rtsa la zug nas yod/ srog rtsa glad (L: klad) pa'i nang na yar la song nas/ tshangs pa'i bu ka'i (L: ga'i) nang na yar la/ blangs (L: rlangs) pa mar po phyu (L: phyur) ru ru byung bar bsam mo// yang na steng rlung mnan la sgom (L: bsgom) byas te shes pa dangs (L: dwangs) su gzhug go// ⑤mkhal nad gdon ba ni/ gtum mo spar la 'khal (L: mkhal) ma mer rtser zhu bar bsams la/ 'khal (L: mkhal) rtsa srog pa rtsa la zug pa de'i nang na mar/ nad zhu ba de song bar bsam/ de nas rla (L: brla) dang byin ba'i (L: pa'i) nang na mar song nas/ sen mo'i bu ga na phar thon bar (L: par) bsam mo// ⑥bad kan gyi nad gdon pa ni/ steng rlung mnan 'og rlung then (L: 'then)/ bar rlung krugs (L: dkrugs) 【144a】 la/ nad thams cad skyo mar song bar bsam mo// 'chil (L: mchil) ma mang du bor/ sgregs (L: sbregs) pa mang du gdon (L: 'don) no// ⑦tshad pa'i nad thams cad la/ steng rlung mnan/ 'og rlung then (L: 'then) bar rlung krugs (L: dkrugs) la/ pho ba'i steng du hūm kha gyen du bstan pa cig (L: zhig) la/ rlung dang rig pa nad gsum ka (L: ga)/ de la gtad krug (L: dkrugs) sdus (L: bsdus) la/ kha nam mkha' la ltas (L: bltas) la/ ha byas la hūm de nam mkha' la/ 'phang ngo// rig pa phyir gdon (L: 'don) zhing g-yer ro// yang na lus khrol ma bzhing du bsams la/ de'i nang na phar nad kyi rlangs pa thams cad/ rlung dang rig pa (L: pas) ded nad song bar bsam mo// dbang po'i sgo thams cad na (L: 欠) phar la song bar bsam mo// hūm ring po drangs la kha has gdab bo// ⑧chu ser gdon ba'i (L: pa'i) thabs la/ gang na sar rlung bzung rig pa gtad la/ rtsa kun gyi nang na phar/ khrag dang chu ser khyu (L: gyur) ru ru song bar bsams la/ yan lag sprug go// sen mo'i bu ga na phar rgyangs rgyangs song bar bsam mo// ⑨stod gzer na rlung gnyis drag tu bzung (L:

(64) 後期シチェ派の教誡に関する一考察 (西岡)

bzungs) la/ brang khar phyag rgya bcas la/ lus bcud la bor/ 'khrul shigs (L: shig) shigs (L: shig)
 bya/ nad bsdu la gyen la ston (L: bstan) la gtang ngo// yang na na sar bug pa phug la phyir gdon
 no// yang na 'u 'u byas la me long la has btab pa bzhin du nad bsdu bsdu (L: 欠) la/ hi hi ha ha'i
 sgras/ rgya bshal gyi khu ba lta bu kha nas pho la gtang ngo// ⑩pho mchin kha 'am [144b] sran
 (L: skran) lta bu zhugs na/ gang na ba'i sar rig pa lcags kyi 'khor lo rtsibs bzhi la cig (L: gcig) tu
 byas la/ 'khor lo skor (L: bskor) te/ catra'i (L: cakra'i) rtse mo yis/ nad thams cad tho (L: thor) ro
 ro song bar bsams la/ khrag rul lta bu kha nas pho la gtang ngo// ⑪drang (L: grang) ba'i nad gdon
 ba ni/ drang ba gdon ba ni/ (L: drang~ni/欠) rgyu ma na ba dang/ rbos (L: sbos) pa dang/ drangs
 pa'i nad gang yang rung ste/ rig pa nang du bcun la gtum mo spar/ me lces lus 'go (L: mgo) gzhug
 myed (L: med) par/ thams cad tsha nyal nyal 'gro bar bsam mo// yang na rig pa me'i 'khor lo cig
 (L: zhig) tu byas la/ drag tu skor (L: bskor) la (L: ba) rang sar gzhag go// yang na pus mo gnyis sa
 la btsugs/ lag pa gnyis pus mo'i gong du 'jus la/ shubs (L: shugs) nus tshad drang ngo// shubs (L:
 shugs) ma nus tsa na sems mda' gang tsam du bzung (L: bzungs) la phus gdab bo// srangs (L:
 bsrangs) pa la/ srangs (L: bsrangs) thog tu rlung dang rig pa gtad la/ rig pa lcags kyi catra (L:
 cakra) rtsibs bzhi pa cig (L: zhig) tu byas la/ nad rtubs (L: btubs) la mag chu 'dzags par bsam mo//
 ⑫gre ba na na rlung so bar du yar grang zhing phus gdab/ kha nas hag hag bya'o// ⑬so na na so'i
 bug pa'i nang nas/ khrag dang chu ser dang/ 'bu srin gzhibs la sbo'o (L: spo'o)// ⑭dri chu 'gag
 na rkang pa khog stod du bkal la/ rig pa sngo la 'phur ba cig (L: zhig) tu byas la/ rkang mthil nas
 grangs (L: drangs) la kha na phar pho la gtang ngo// ⑮snying ngam mchin pa na na [145a] shugs
 nar nar byas la drang ngo// ⑯ma zhar gyi nad kyi klangs (L: rlangs) pa 'go (L: mgo) la phog nas
 na na/ 'jing (L: mjing) pa bkug la his his bya/ yang na shi shi byas la nad gdon no// ⑰stod kyi nad
 yar la gdon no// ⑱khong gi nad krug (L: dkrug) mar byas la/ bas (L: ba) spu'i bu ga na phar la
 gdon/ ⑲yan lag gi nad sor mo'i bug pa na gdon no// ⑳khrag nad la rig pa gseng ngo// ㉑rlung
 langs pa'i nad la rig pa mer re lteng nge byas la sgom mo// nad 'don pa rdzogs (L: 欠) s-ho (L:
 欠) (L: iti, R: 欠)//

Dar tshags kha 'thor Zhal gdams pa mo'i 'phreng ball (L: 欠)

- 1) 西岡 1978, 27-28, 43-45 参照。 2) 西岡 1978, 28, 45 参照。 3) ZSK, vol. 3,
 pp. 92-190 (fols. 46b3-95b7); 西岡 1978, 33 参照。 4) ZSK, vol. 3, pp. 206-496 (fols.
 103a1-247b7)。 5) 西岡 2014, 846-847 参照。 6) 西岡 1987, 56, 60 参照。
 7) ZSK, vol. 4 (Nga), pp. 287-291 (fols. 143a1-145a3)。 8) ZSK, vol. 4 (Nga), pp. 249-286
 (fols. 124a1-142b4)。 9) ZCG, vol. 3 (Ga), pp. 615-661 (fols. 1a1-24a4)。 10) ZCG,
 vol. 3 (Ga), pp. 653-657 (fols. 20a2-22a4)。 11) “rTen ne”と表記される場合もあり、そ
 のバリエーションと考えられる(原田 2005, 27 (1127 年の項) 参照)。 12) 原文は “nad
 bsdu ba” であるが、冒頭では第 3 節は “brtag pa” とされているため「[病の] 考察」と訳
 した。 13) 原文は “rlung gyi brda' (L: brda) thabs” であるが、“brda' (L: brda)” の意味
 が不明である。したがって内容から「[息]を制御する方法」と訳した。 14) 『四
 部医典』の成立については、西岡 1987, 397-398; 石濱他 2015, 5-6 を、その全体構成につ
 いては、西岡 1987, 394-396; クリフォード 1993, 318-323 を参照。 15) GZL, vol. 1

(Ka), fol. 7b; 李 1983, 8-9 参照. 16) GZL, vol. 3 (Ga), fols. 1b-25b; 李 1983, 85-113 参照. また三大生命維持要素については, 西岡 2010, 313-314; クリフォード 1993, 191-197 を参照. 17) GZL, vol. 3 (Ga), fols. 151a-159b; 李 1983, 288-300 参照. 18) 西岡 1978, 12-19 参照. 19) ルン病の治療方法は, 『四部医典』では第3秘訣篇・第1章「病因となる三要素を治療する方法 (1-5 節)」の第2節に述べられているが, ルン病として①心風 (snying rlung), ②肺風 (glo rlung), ③肝風 (mchin rlung), ④胃風 (pho rlung), ⑤腸風 (long rlung), ⑥腎風 (mkhal rlung) の6種が挙げられている (GZL, vol. 3 (Ga), fols. 3a1-9b3; 李 1983, 87-93 参照). ここで扱われているのは①の心風である. 20) 『四部医典』全編に対する大注釈書『青瑠璃』を著したサンゲ・ギャムツォ Sangs rgyas rgya mtsho (1653-1705) は自説を図説化して79枚からなる医学タンカを作成させたが, その第40図は鍼灸術のツボの位置を示したものであり, 心臓の中心叢は三角形で描かれている (王鏞・強巴赤列 1986, 20, 275-278 参照). またクリフォードも, 同種の医学図表を『図説チベット・モンゴルのアーユルヴェーダ薬物』から転載のうえ紹介している (クリフォード 1993, 184 参照). 21) クリフォード 1993, 92-94 参照. 22) 『蔵漢大辞典』(民族出版社, 1993, p. 1115)によれば, “stod gzer” (上半身痛) はティーパ病の徴候であるとする. 23) 薬剤については『四部医典』の第2論述篇・第6章「調合する薬についての教説」(19-21 節)に述べられており, 茜草は第20節に「草の薬」の一種として挙げられ「肺と腎臓における拡散した熱を取り除く」とされている (石濱他 2015, 24; 李 1983, 59 参照). ただ, 原語は本書が“rgya bshal”であるのに対し『四部医典』では“btsod”である (GZL, vol. 2 (Kha), fol. 28b1 参照). 24) ②の眼病に治療において, 「空洞の脈管を氷片 (= 樟脳, 『格西曲札蔵文辞典』民族出版社, 1957, p. 110 参照) の白い水で満たして, 冷え冷えと氷が張ったように思念する。」とある. 氷片 (ga bur) は『四部医典』の第2論述篇・第6章・第20節に「エッセンスの薬」の一種として挙げられ「高熱を落雷のように〔強烈に〕滅する」とされている (石濱他 2015, 20, 38; 李 1983, 56; GZZ, vol. 2 (Kha), fol. 26b1 参照). 25) ②の眼病と⑭の尿閉の病では楔? ('phur ba) を, ⑩の寒病では火の輪 (me'i'khor lo) を「知」によって作り出して患部の治療を行うとする.

〈略号〉

- GZL 『四部医典』. *Rgyud bzi: A Reproduction of a Set Prints from the 1888 Lha-sa Lcags-po-ri Blocks*. Smarntsis Shesrig Spendzod, vol. 87. Leh: T. S. Tashiganpa, 1978.
- ZCG 『シチェ派とその支派チュー派の経巻集』. *Dam chos sdug bsngal zhi byed rsta ba'i chos sde dang yan lag bdud kyi gcod yul gyi glegs bam*. Ed. Lama Sangye and Au Tsulgyen. 13 vols. Kathmandu: Dingri Langkor Tsuglagkhang, 2012-2013 (TBRC no. W1KG22147).
- ZSK 『シチェ派の初中後三期の法類』. *Zhi byed snga bar phyi gsum gyi skor*. Ed. Barbara Namri Aziz. 5 vols. Thimphu: Druk Shesrik Parkhang, 1979 (TBRC no. W23911).

(66) 後期シチェ派の教誡に関する一考察 (西岡)

〈参考文献〉

- 石濱裕美子・西脇正人・福田洋一・谷田信治 2015 『チベット伝統医学の薬剤研究』 藝華書院.
- 王鐳・強巴赤列編 1986 『四部医典系列掛図全集』 西藏人民出版社.
- 西岡祖秀 1978 『西藏仏教宗義研究 (第二巻) ——トゥカン『一切宗義』シチェ派の章——』 東洋文庫.
- 1987 「チベットの医学」 長野泰彦・立川武蔵編 『チベットの言語と文化』 冬樹社, 390-407.
- 2010 「チベット医学」 沖本克己・福田洋一編 『須弥山の仏教世界』 (新アジア仏教史 9) 佼成出版社, 312-315.
- 2014 「タムパ・サンゲの『金剛歌』 ——ミラレーパに与えた教誡——」 『奥田聖應先生頌寿記念インド学仏教学論集』 佼成出版社, 845-851.
- 原田覺 2005 「チベット仏教史年表 (西暦 1087-1146 年)」 『国士舘大学文学部人文学会紀要』 37: 13-33.
- 李永年訳 1983 『四部医典』 人民衛生出版社.
- クリフォード, テリー 1993 『チベットの精神医学——チベット仏教医学の概観』 中川和也訳, 春秋社. 原著: *Tibetan Buddhist Medicine and Psychiatry* (York Beach, Maine: Samuel Weiser, 1993).

〈キーワード〉 後期シチェ派, チベット医療文献, 『教誡・蓮華の鬘』, 『四部医典』, タムパ・サンゲ, ギェルワ・テネー

(四天王寺大学教授)